

～脂肪肝について～

臨床検査技師 佐藤 静枝

脂肪肝とは肝臓の細胞中に脂質の一つである中性脂肪が多く蓄積した状態です。
近年、我が国では食生活の欧米化、さらには過栄養による脂肪肝の頻度が増加しています。

【 肝臓～沈黙の臓器 ～ 】

肝臓は右の肋骨に守られるようにして存在し、少々の障害を受けても症状を表さず、「沈黙の臓器」とも呼ばれます。肝臓の主な働きは、私たちの体に必要な蛋白質の合成・栄養の貯蔵、有害物質の解毒・分解、食べ物の消化に必要な胆汁の合成です。

このように肝臓は黙々と多彩な機能を果たしている臓器なのです。

*焼き鳥のレバーはこの肝臓のことで、人間の肝臓も牛や鶏と似たような色をしています。

【 脂肪肝の種類 】

脂肪肝には、お酒を飲み過ぎた人になるアルコール性の脂肪肝とお酒をあまり飲んでいないにも関わらず肝臓に脂肪が貯まってしまう、非アルコール性の脂肪肝があります。

お酒の飲み過ぎは脂肪肝に留まらず、肝炎や肝硬変になる可能性があります。また、お酒をあまり飲んでいない非アルコール性の脂肪肝の人でも同じように肝臓の病気が進行してしまうことがあります。



【 脂肪肝を疑う検査所見 】

脂肪肝は血液検査と超音波検査やCTなどの画像検査とあわせて診断されます。

<血液検査>

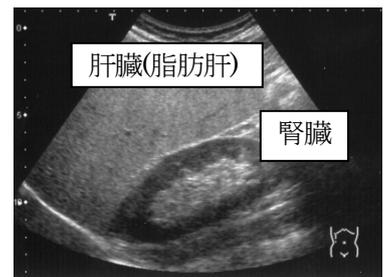
AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GTP、CHE など、脂肪肝ではいずれも高値を示すことが多いです。

特に γ -GTP 高値の場合はアルコールによる肝障害が疑われます。

<腹部超音波検査>

正常の肝臓は腎臓と同じ明るさで見えますが、脂肪肝の場合、脂肪が沈着することで白く輝いて見えます。

血液検査で異常が見られなくとも、画像検査によって脂肪肝が認められることもあります。



※ 健康診断の結果をそのままにいませんか？

消化器内科にご相談ください。当院でも画像検査を受けることができます。